

## 2.12 パッシブ運用の盲点

手数料の低さだけでファンドを選ぶのは早計

「アクティブ運用のファンドはコストが高くて、パッシブ運用のファンドに負けてしまう」といわれることが少なくありません。

しかし、本当は、運用成績が優れているアクティブ運用のファンドを見つけるのが難しいだけなのです。

### 2.12.1 アクティブ運用とパッシブ運用

ファンドに設定されたベンチマーク（ファンドの運用の基準となる指標）よりよい運用成績を求める運用スタイルがアクティブ運用。ベンチマークと同じような運用成績を残すことを目指す運用スタイルがパッシブ運用です。

日本の株式に投資するファンドであれば、代表的なベンチマークは、TOPIX（東証株価指数）が挙げられます。

### 2.12.2 アクティブ運用のファンドは見つけるのが大変

ここで、具体的なファンドを見てみましょう。パッシブ運用の代表は、三菱UFJ国際投信が運用する「eMAXISTOPIX インデックス」です。アクティブ運用の代表は、フィデリティ投信が運用する「フィデリティ日本成長株ファンド」です。

ともにたくさんの金融機関で取り扱われているファンドです。この2つのファンドに、2010年1月から2018年6月まで、毎月、月初に3万円ずつ投資した結果を比較したものが、表2.2になります。

申込手数料は、アクティブ運用のファンドである「フィデリティ日本成長株ファンド」が高くなっています。また、この表には掲載されていませ

表 2.2 アクティブ運用とパッシブ運用の比較

	eMAXIS TOPIX インデックス	フィデリティ 日本成長株 ファンド
運用スタイル	パッシブ運用	アクティブ運用
申込手数料	0.0%	3.24%
投資金額【2010年1月～ 2018年6月】(a)	3,060,000円	3,060,000円
2018年6月末評価金額(b)	5,185,412円	5,192,462円
累積騰落率(c=b ÷ a)	169.5%	169.7%
年換算騰落率(cの年換算化)	6.4%	6.4%

んが、信託報酬も「フィデリティ日本成長株ファンド」が高くなります。それでも、累積騰落率に示すように、ファンドの運用に大きな差異はありません。

アクティブ運用がパッシブ運用に負けるというのが正しいのではなく、パッシブ運用に勝るようなアクティブ運用を探してくるのが一苦労というのが本当の話です。

ちなみに、表 2.2 では、「フィデリティ日本成長株ファンド」の申込手数料を 3.24% として計算していますが、販売会社によっては、ノーロード(0%) にしている会社もあります。